

平成25年度
私立学校初任者研修 小学校（西日本地区）研修会
実施報告概要

小学校（西日本地区）の本年度初任者研修会は7月31日（水）～8月2日（金）の3日間、大阪市の大阪ガーデンパレスで開催され、46名が参加した。

1日目には開会式に続いて、西日本私立小学校連合会の前会長でもある箕面自由学園小学校前校長の原誠治氏より「私学の教師として」と題する講演が行われた。若い教員には私学の教師としての自覚を抱いて欲しいという熱い気持ちが伝わる内容であった。



次に、行われた「教員のためのマナー講座－児童のお手本となるマナーを身につける－」では、HRJ講師の坂本麻美氏、竹内涼子氏の両氏の指導のもと、マナー実習を行った。ロールプレイングを取り入れた実習に、受講者たちは熱心に取り組んでいた。

その後、参加者及び運営委員を交えて夕食を兼ねての経験交流会が催され、限られた時間ではあったが初任者にとってはコミュニケーションの場として有意義なひとときとなった。

2日目は、まず須磨浦小学校、佐山公章教諭と甲南小学校、浅川功治教諭による「心と心をつなぐ学級経営」が行われた。小学校における学級経営の重要性を学ぶ講座であった。



次に、NIT情報技術推進ネットワーク、篠原嘉一代表による「子ども達のスマホやゲーム機利用の現状－教職員のソーシャルサイト利用のリスク－」では、近年の情報機器をめぐる環境の変化は、小学生にも影響が及んでいる。児童を危険から守るためにも、教師は知っておかなければならないことが多い、とのことであった。



午後からは、当研究所の大森隆實専任研究員による「明日から役に立つ授業経営」が行われ、私学が置かれている状況や子ども達の実状を、さまざまな例を取り上げて解説した。

その後、「楽しい体育指導」では、帝塚山小学校、野村至弘教諭、ノートルダム学院小学校、綾田満成教諭、光華小学校、安本幸男教諭の3名の指導のもと、体育実技に取り組んでいた。

夕食後の「グループ討議」では、指導助言者のもと低学年・中学年・高学年・専科と4つのグループに分かれ、教室での日々の悩みや問題点などを議論しあった。

3日目は、兵庫教育大学大学院学校教育研究科人間発達教育専攻臨床心理学コースの嶋崎まゆみ准教授による講演「気になる子どもの理解と支援－クラス作りに役立つ特別支援教育－」が行われた。

閉会式では、当研究所の大森隆實専任研究員による研修会の総括を交えた閉会挨拶の後、参加者代表に修了書が授与され3日間の研修会は終了した。